兵庫県立農業高等学校（全日制）　　令和3年度学校評価報告書

1　学校教育方針

校訓「ゆたかな情操・たゆまぬ研鑽」の精神を基調に、21世紀の日本の担い手としての自覚と、豊かな創造性及び深い人間愛の精神を持ち、自らが主体的に判断し、行動できるこころ豊かな人材育成をめざす。

2　重点目標

（1）こころ豊かな人格の完成をめざし、自主・自立の精神と積極的な実践力を養成する。
（2）社会情勢の変化に対応できる基礎・基本の確実な定着を図り、自ら学ぶ意欲・態度を養成する。
（3）お互いを思いやり、尊重し、命や人権を大切にする豊かな情操や徳性を育む。
（4）新しい時代に即応した青年農業経営者並びに関連産業従事者に必要な広い知識と技術を身につけ、科学的な経営能力を育成する。
（5）人と自然の調和をめざした環境づくりに貢献する実践的な態度や能力を育てる。

4　学校評価の実施方法についての学校関係者評価

・各分野について、学校自らが課題を抽出し改善方策等について検討・実施されており、学校関係者へも分かるように資料等を示した上で評価できるよう配慮されている。
・多様な学校関係者（生徒、保護者、職員）の学校への評価を総合的に第三者が判断する方法は妥当と思われます。　　・適切に行われている。

5　総合的な学校関係者評価

・学校関係者へのアンケート調査項目により評価は変わる可能性があり、当該項目の選定・設定の背景や基準の見える化もしていただけるといいのではないかと思います。　　・着実に成果をあげられており、評価できる
・全体として非常に熱心に取り組んでおられると思います。状況の改善を要する項目については、方策を多方面に検討され、実践につなげていただくようお願いします。
・「県農」の伝統を守りながら実践校として、新たなことに取り組まれるなどの努力と成果が認められる。引き続き農業を核とした人材育成に関係機関共々尽力願いたい。
・生きる原点を確実に身につけてほしい。　　・目標を持って学んでいる生徒い向き合う県農の教育方針は、すばらしいと思います。

3　学校自己評価結果　（A　優れている　B　良い　C　やや改善　D　要改善）

6　評価項目ごとの学校関係者評価

分野	評価項目・取組内容	評価	学校の取組状況・改善の方策	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
1　開かれた学校づくり	・家庭や地域への情報発信 ・学校施設や教育資源の地域への開放 ・PTCAとの連携 ・積極的な学校運営の推進	B	・ 本校ホームページや『農のチャレンジ』等を活用し、学習成果や学校生活に関する情報を積極的に発信することに努めた。 ・新型コロナウイルス感染症対策のため、十分に学校施設や教育資源を開放することができなかった。そのため近隣の小学校等との交流行事が完全な形で行うことができなかったことをはじめ種々の交流行事の実施に支障があった。 ・10月の体育大会はコロナ禍のため、保護者の参観はできなかったが、11月の学習成果発表会では、学年ごとに時間制限を行い、少しでも保護者の方々にも日頃の生徒の活動を見学していただく機会を設けた。 ・PTAと協力し、PTAだより、ﾗｲﾝﾈｯﾄ等を活用した広報活動を実施した。しかしコロナの影響で、従来行ってきたPTAに参加いただく学校行事の実施や近隣自治会との意見交換会などが開催できなかった。 ・各部との連携を図り、新型コロナ感染症対策を行いながら生徒が安全・安心に学校生活を送ることができるよう努めた。	・地域の農業発展について、ご協力をいただき、地方関係機関としてたいへん感謝しています。コロナ禍において、「開かれた学校づくり」にはご苦労されたと思います。今後もしばらくこの状況が続くと思われますので、よりよい進め方をご検討ください。 ・コロナ禍で色々と制限がある中、時間制限による発表、ラインネット等を活用した広報活動など、引き続き工夫を凝らしながらの取り組みを期待します。 ・PTA活動が何もできず、残念ですが、県農祭でのPTA活動は行きすぎなところがあると思うので、これを機に見直すことの大事だと思います。（模擬店の縮小） ・コロナ禍でとまどっているのか、1年生の元気が足りないように感じます。しっかりとした学校行事ができることを願います。 ・コロナ禍において工夫をされており、評価する。
2　生徒指導	・生徒の内面理解を図る指導の工夫 ・生徒の自主自立の精神の育成 ・学校行事の活性化 ・いじめの防止と組織的対応 ・交通安全意識の向上	A	・生徒との個人面談や面談週間を定期的に実施するとともに、クラスルームを通じて生徒の内面に対する共感的理解を深めた。それらの取組により生徒の良さや可能性を引き出すことにつながった。 ・学校行事の企画・立案・運営を生徒会執行部が主体的に行うことにより、自立心や自律性の育成、規範意識の涵養につなげた。4月の校内祭においては、事前準備や当日の運営をすることにより、クラスでのまとまりや団結を深めることができた。 ・サイバー講演会を実施し、SNSを安全に利用する方法や情報モラルなどを高める機会を持った。 ・「いじめ防止基本方針」に従い定期的にアンケート調査を実施した。いじめの積極的な認知と未然防止、早期発見・早期対応における組織的対応の充実を図った。 ・PTA合同登校指導を行った。協力して行うことにより、危険箇所の共通理解ができ、生徒への交通安全指導の充実につながった。加古川警察とも連携し、自転車の安全指導に努めた。	・新教育課程実施を踏まえ、ICT等を活用しながら「県農」らしさを生かせる授業・実習等の実施に努めていただきたい。 ・校内での指導内容が各家庭でも共有・継続され学校生活と家庭生活が一体となって相乗効果が得られるよう引き続き取り組み願いたい。 ・多くの生徒どれぞれの個性を尊重しながら、交流を深めさせていくことはたいへん難しいと思います。生徒が自身のそしてお互いを認め合える人育て、環境づくりを今後もお願いします。 ・SNS等の意識啓発にも取り組まれており、評価する。
3　教育課程	・体験的・問題解決的な学習の推進 ・専門教育の充実 ・情報活用能力の育成 ・指導方法と評価方法の工夫	B	・来年度からの新教育課程実施へ向けて職員研修会を開催し、知識・技能の向上に努めた。 ・専門教科を中心に、さまざまな体験学習や「課題研究」を通して、主体的・対話的な学習を推進し、個々の学びを深めることができた。 ・課題研究発表会では、課題を発見し、その課題を研究することで課題の解決に向けて取り組む力が身についた。 ・Office365やGoogle WorkspaceなどICTを活用した共同学習、遠隔交流、課題、アンケート、連絡、相談、アンケート等を実施し、生徒の学習の深化と情報活用能力の向上に取り組んだ。 ・ICT活用に関する職員研修を行い、授業公開週間を「ICT活用授業週間」と位置づけ、ICT活用スキルの向上と授業改善に取り組む教員が増加した。	・新教育課程実施を踏まえ、ICT等を活用しながら「県農」らしさを生かせる授業・実習等の実施に努めていただきたい。 ・情報活用は今後ますます求められていくものと思われますし、地域農業発展に寄与する専門教育は関係機関として、ぜひ充実させていただきたいところです。特に多岐にわたる情報に惑わされないことも必要で、それには体験的・問題解決的な学習やひととしてどう生きるかといった教育はなくてはならないものと考えますので、引き続き力を入れていただけるよう、お願いします。 ・積極的な研修等により、ICTの活用などが推進され、評価できる。
4　進路指導	・主体的な進路選択への支援 ・職業観・勤労観の育成 と進路意識の向上 ・キャリアプランニング能力の向上	A	・計画的に進路ホームルーム、進路面談を実施し、自らの意思と責任で主体的に進路を選択し決定できる能力や態度の育成に努めた。 ・生徒の進路実現に向けた補習の時期や内容を感染防止対策を徹底しながら検討、実施した。 ・キャリアプランニング能力の向上に向け、インターンシップを充実するなど、家庭や地域、企業とも連携して自立した社会人・職業人として必要な能力の育成に努めた。 ・各種検定取得などに積極的な取り組みを行った。	・卒業直後だけでなく、中長期の展望に立ち、進路の検討・選択を生徒自らが行える指導に努めていただきたい。 ・地方関係機関としては、地域農業の担い手しての意識熟成をお願いしたいところです。 ・ 大いに評価する。
5　学校の個性化・多様化	・地域連携教育の推進 ・職業体験学習の推進 ・他校種連携の推進 ・農業従事者及びスペシャリストの育成 ・他国の歴史や文化及び農業の理解	A	・インターンシップでは、安全意識の向上及び生徒のニーズに合う新規受け入れ先の開拓に努めた。また事前指導では感染予防対策に重点を置いて実施した。 ・7月に第72回日本学校農業クラブ全国大会令和3年度兵庫大会兵庫県リハーサル大会、10月に第72回日本学校農業クラブ全国大会令和3年度兵庫大会を運営し、生徒も教職員も大会の成功に大きく貢献した。 ・ニュージーランドフレーザー高校とWebによる交流を行い、コロナ禍においても継続的な国際交流を実施するとともに相互訪問の再開時に円滑に交流が進むよう務めた。。 ・農産物の地域出荷、農商連携など地域活動に意欲的に取り組み、生徒の学びを深めるとともに地域貢献を果たした。	・インターンシップ、国際交流や県農産農畜産物の地域内出荷・農商工連携などを通じて、これまで以上に学生の個性や多様性が発揮されるよう取り組まれることを期待します。 ・農業従事者やスペシャリストの育成は特にありがたいです。学校が魅力的なことは生徒の皆さんのモチベーションにつながると思います。 ・様々な取り組みをされており、評価する。
6　危機管理体制の整備	・家庭・地域・関係機関と連携した危機管理 ・教職員の実践的な研修 ・教職員の防災教育に係る指導力実践力の向上 ・農場の安全管理の徹底	B	・防災避難訓練では現実に即して、休み時間に発災したことを想定した火災避難訓練を行い、職員・生徒が防災意識や対応力を高めることができるよう工夫した。また、防災ﾏﾆｭｱﾙを活用した職員研修を実施した。 ・新型コロナウイルス感染症兵庫県対処方針に基づき、その対処方針を保護者に文書やホームページ、ラインネットを用いて広報することにより各家庭の感染防止の一助となるよう務めた。 ・農場の安全管理の徹底に向け定期的・日常的に施設・設備の点検を行った。 ・実験設備、実験危惧、圃場、ビニル張上う、ガラス温室、管理施設の安全性を見直すため、危険予知活動に基づいた学習環境の整備を実施した。	・実習機器や施設など、身近にあるものから危険を認識し意識した思考や行動が取れるきっかけ作りとともに、そこへ導くためにも日頃の教職員の意識と取り組み姿勢が重要だと思います。 ・様々な実習・作業を通じて、生徒のみなさんの危機管理能力を養えることはたいへん意義深いことと思います。 ・コロナの経験を次代につないでください。 ・学習環境の点検整備をされるなど、積極的に取り組まれており敬意を表する。
7　人権教育の推進	・人権尊重の精神の涵養 ・組織的な取組 ・インターネットによる人権侵害の予防 ・教職員の指導力向上	B	・年間計画に基づいた人権ホームルームを通して、人権尊重の精神の涵養に努めるとともに、共生社会の実現に向け主体的に取り組む実践力の育成を図った。 ・1学年に人権に関するアンケートを行い、意識や関心を調査、今後の人権教育への課題研究を行った。 ・新型コロナ感染症に伴う偏見・差別やインターネットによる人権侵害など、今日的な人権課題について、ホームルーム活動を中心に教育活動全体を通して人権意識の高揚を図った。	・県農の特徴でもある実習を通じて、体力や技能の違いを意識させ、他者を思いやる心を醸成できれば良いと思います。 ・人権尊重の精神は、学校生活のすべてに潜在しているべきものと考えますので、引き続きよろしくお願いします。 ・適切に実施していると評価する。
8　教職員の資質向上	・実践的指導力の向上 ・社会の変化に対応した教育観の育成 ・魅力ある授業の実践 ・服務規律の遵守 ・働きやすい職場環境づくりを進める	A	・来年度からの新教育課程実施へ向けた研修、ICTの活用に関する研修を行うとともに、年間2回の授業公開週間を実施し、実践的指導力の向上につなげた。 ・専門教育の更なる深化に向けて、最新の知識や技術の収集に努めるとともに、学科間、教職員間の共有化を図った。 ・自殺予防に関する職員研修会を行い、生徒への適切な声がけなど傾聴姿勢を持って、指導にあたることを研修で確認した。 ・服務規律の遵守について、研修等により共有し注意し合うとともに、教職員としての誇りと責任を自覚して自己の行動を律するよう促した。 ・定時退勤日・ノー部活デー・ノー会議デーの実施、学校閉庁日の設定、留守番電話の設置を行い、教職員が心身ともに健康で、生徒と向き合う時間の確保に努めた。	・教職員自身が、（学生とともに）触れてみてやってみた経験等をベースにすれば、これまで気付けなかったことやより的確な傾聴やアドバイスができるのではないかと考えます。 ・研修の充実など、努力を大いに評価する。 ・業務が多様化・多量化するなかで、資質向上にはたいへんなご苦労があるかと思います。地域関係機関も’一教職員’としてできることがあればさせていただきたいと思います。